様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　３月３１日現在

機関番号：32702
研究種目：基盤研究（Ａ）
研究期間：2007　～2010
課題番号：19251012
研究課題名（和文）中国における民俗文化政策の動態的研究

研究課題名（英文）The Dynamic Study on Folk-Cultural Policies in China

研究代表者
福田　アジオ（FUKUTA　AJIO）
神奈川大学・外国語学部・教授
研究者番号：60120862

研究成果の概要（和文）：　改革開放が進むなかで、打破すべき封建制の残滓から保護すべき伝統文化へと、民俗文化の評価も大きく変わってきた状況下において、浙江省の西北部山間の２村落を対象に詳細な民俗誌を作成し、それを通して文化政策とその影響および地域の対応を実証的に検討した。

4 年間の調査によって、古鎮保護、非物質文化遺産保護という二つの動きが地域に与えている大きな影響、またその政策実施に対応するかたちで展開した地域の観光開発その他の動向と問題点を明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to study specific villages and compile detailed field reports on the folk culture of these villages in an attempt to investigate China's cultural policies on rural villages and their actual impact amid the dramatic reappraisal of folk culture in line with the radical change from a policy of eliminating the remnants of feudalism to the conservation of cultural life.Two villages in the mountainous areas of northeast Zhejiang Province were identified for field research.

Through field investigations over a period of four years, this research project was able to bring to light the significant impact of the two policy trends of conservation of old towns and non-material cultural relics on the local communities, local tourism development efforts and other moves in response to these policies, as well as issues arising therefrom.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
２００８年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
２００９年度	5,800,000	1,740,000	7,540,000
２０１０年度	6,700,000	2,010,000	8,710,000
総　計	22,200,000	6,660,000	28,860,000

研究分野：民俗学
科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学
キーワード：中国、文化政策、民俗学、古鎮、非物質文化遺産、観光開発、フォークロリズム

１．研究開始当初の背景

中国において、改革開放以後、それまで打破すべき封建制の残滓とのみ評価されていた民俗文化が、保護すべき伝統文化へと評価を大きく変えてきた。そして、政治制度の改革や経済発展にともない、地方の民俗文化が急速に変容している。それは、社会・政治・経済状況の著しい変化に対し、地方の人々が無意識で受動的に応じた緩やかな変容である場合もあるが、一方で、政治などの外部的な圧力により、積極的に促進された変容も頻繁に見受けられる。特に、古鎮保護、非物質文化遺産保護という上から強力に進められる政策が地方で具体化されるなかで、地域の民俗文化に様々な変化をもたらした。さらに、企図的、能動的に民俗文化を変容させ利用を推進する地方の立場も出現しつつある。中国の地方の民俗文化は、いま、ダイナミックな変遷過程の途上にあるといっても過言ではない。

２．研究の目的

（１）経済的な発展が著しい中国江南地方において、民俗文化の研究にとって重要な地点を選定して、まず民俗文化全般を全体的、総合的にとらえる民俗誌を作成することを第一の目的とする。従来、中国研究は往々にして「中国」あるいは「中華」という粗く大きな枠組みを民俗文化研究に採用してきた。しかし、民俗文化の個別性と普遍性とを実証的に弁別可能とするためには、特定の地域において制作される統合的なドキュメンテーションをもとにした民俗誌的研究が必須である。本研究では、浙江省西北部における対照的な複数の村落を選択して、長期にわたって集中的な調査を行い、民俗文化とその変容に関する詳細な情報を網羅した民俗誌を作成する。

（２）さらに、本研究は、その民俗誌データによって民俗文化変容をモデル化することを第二の目的としている。現在、中央政府から強力に進められている非物質文化遺産保護政策は地方政府を通して地域社会に大きな影響を与えつつある。本研究では、調査で得られた精緻なデータをもとに、民俗文化政策とそれが引き起こしつつある民俗変容の状況と、その変容を生み出した基盤としての社会・経済的な要因も明らかにし、それらの全体像を動態的民俗誌として完成させる。本研究は、民俗事象のドキュメンテーションに、そのバックグランドにある社会・経済・政治状況に関するデータを加味し、その民俗文化変容のダイナミズムを明らかにするものである。

（３）本研究は、日中の民俗学研究の協力、協同関係を調査研究レベルで樹立することを目的とする。双方の民俗学の形成展開過程は異なり、中国の民俗学は語りの民俗学として成長してきた。それに対して、日本の民俗学は行為の民俗学であり、大きく異なる。しかし、近年、中国でも行為の民俗学への傾斜を強めており、本研究を通じて、日本の民俗学がながく培ってきた行為を把握する精緻な民俗調査の方法とその結果を相互間連ささせて一つに統合した民俗誌を作成する方法を、中国の民俗学界へ参考に供することも一つの目的である。

３．研究の方法

（１）近年は、中国においても、体系的民俗誌作成のためのフィールド・ワークに対する理解は深まりつつある。しかし、現在、なお民俗誌は、旧来から行われていた地方誌などの文献資料に基づく手法に頼ったものが多い。さらに、その網羅する範囲は、未だ民俗事象全般を取り扱う統合的民俗誌ではなく、分野に偏りが多く見られる。そのような状況の中、本研究は、浙江省西北部に設定した二つの村落において、村落単位の詳細なフィールドワークを行い、民俗事象を網羅的、組織的に収集し、民俗誌として統合する作業を行い、相互関連した全体的な民俗文化を描くことを目指す。しかも、今日急速に改変、消失されようとしている民俗文化を記録することは急務であり、かつ重要な意義をもっている。日本の民俗学が長年培ってきた、村落を単位として集中的に民俗を把握する調査方法、また、民俗諸事象を組織的に収集し、その資料を体系的に民俗誌へ統合する研究方法を応用することにより目的に迫る。

（２）さらに、本研究は、民俗変容の背景となる社会・経済・政治状況も加味しながら、変化の要因を検証する動態的民俗誌を構築する。従来、中国の民俗文化研究では、民俗を過去の歴史文化の「残存」として扱う、非常に静態なとらえ方をしてきた。そこでは、古代的な文化現象が連綿と「残存」として、現代にまで繋がり存在するという、いわば本質主義的な枠組みが主流であった。本研究はそのような研究状況のなか、民俗文化が常に変容し、さらにその変容が受動的なものばかりではなく、地域住民の意思や政策によって能動的に変えられつつある現場を実体的にとらえる。そのような、動態的民俗誌は、未だ中国においてほとんど作成されておらず、その民俗誌作成手法と、そこから得られるデータは、日中を問わず民俗学界に大きなインパクトを与えることが予想される。また、その一連の作業成果を公刊することは、以後の

研究に対して新しい比較材料を提供するばかりではなく、中国民俗研究の新しい出発点となることが期待される。

（３）動態的民俗誌を作成するためには、地域住民や地方行政という現場と十分な関係を構築することが肝要である。特に中国においては、このような現場との密接な連携は不可欠である。本研究は民俗文化研究と民俗文化行政に大きな影響力をもつ中国民間文芸家協会（中国文学芸術界連合会の下部団体）と全面的に協力することにより、現場との十分な関係を構築する。そのような調査環境で作成される動態的民俗誌は、地方の民俗の変容に関する詳細で新しい情報を提供してくれることが期待される。

（４）文化政策と民俗文化との関係を明らかにしようとする本研究は、日本および中国の民俗学研究にとって緊急の課題であり、研究過程および成果を広く両国の学界に報告し、また研究者の意見を聞き、問題を深め、共有化する必要がある。研究期間のなかで公開研究会・シンポジウムを日本および中国で開催して、そのような機会を設けると共に、成果としての民俗誌を印刷刊行して日中の関係研究機関、研究者に配布する。

４．研究成果

（１）研究成果の第一は、４年間の調査をまとめて記述した研究成果報告書『中国江南山間村落における民俗文化変容の研究』(A４判 366 頁）という大部な報告書を印刷刊行できたことである。研究計画に基づき、浙江省江山市廿八都鎮と龍游県仏山郷三門源村を調査対象として持続的な民俗誌調査を実施した。研究代表者・連携研究者・研究協力者が二つの村落の両方に赴き、調査事項を分担し、詳細な民俗調査を行った。そして各人が両村落のいずれにおいても調査結果を取りまとめて記述した。そのことによって、社会経済的な条件が異なる村落における文化政策の展開と地域住民の対応の相違を比較する視点を獲得し、詳細に記述を行った。その結果が A4 判 366 頁を超える大部な民俗誌となった。

中国においては、フィールドワークに基づく詳細な民俗誌は未だ作成されることは少なく、特に社会経済的変化が著しい江南地方ではほとんど存在しない状況において、今回の詳細な民俗誌は今後の研究のモデル的な役割を果たすものと思われる。記述内容が参照されるだけでなく、民俗誌作成にいたる調査方法についても中国の民俗学界に少なからず影響を与えるものと予想される。

（２）成果の第二点は、動態的民俗誌を完成させたことである。研究方法の項でも述べたように、従来の民俗誌は日本においても、中国においても、より古い姿に遡及する指向性が強く、現実の生活を全体的に描くことはしてこなかった。まして、現時点での変化・変貌、さらには形成を把握することはしてこなかった。本研究は、その成果としての報告書において、動態的民俗誌の作成を目指し、完璧ではないが、一定の成功を収めた。特に、地域社会の外から押し寄せてきた文化政策の及ぼした影響、それに対応した地域住民の動向を動態的に把握した。しかも、地理的、社会経済的条件の異なる二つの村落を同時並行して調査を行ったことにより、統一的・一律的政策展開が条件の異なる地域においてそれぞれどのような作用を及ぼし、人びとのどのような対応を生み出したかを具体的に把握することができた。特に、地域住民の対応としての観光開発や特産物生産は、様々な悲喜劇を生み出しながら、展開していることを把握した。

（３）成果の第三は、日中の研究者が協業して調査を行い、共同して研究成果を挙げた点である。日中の研究者が一つの研究組織を作り、合同で現地調査を行い、調査内容や方法を共通にする努力を行った。長期にわたり、持続的に、日中の研究者がチームを作って調査を行ったことによって、それぞれの異なる問題意識や調査方法も明らかになり、それを議論し、調整することで、新しい研究方法を互いに獲得した。特に、日本の民俗学が培ってきた民俗調査の方法を中国側研究者に提示し、中国側研究者も多く採用した。日中共通の調査研究法が形成される契機となったと評価できよう。

（４）第四の成果は、4 年に及ぶ研究期間に中国および日本において公開研究会、シンポジウムをたびたび開催したことである。2 年度目には、調査対象の浙江省において「中日非物質文化遺産保護鄞州論壇」、3 年度目には横浜市において「中国および日本における非物質文化遺産とその保護」、そして 4 年度目には北京市において「中日非物質文化遺産保護検討会」と、公開シンポジウムを３回開催し、研究代表者、連携研究者および研究協力者が報告した。いずれも非物質文化遺産保護に関係する多くの研究者の参加を得た。参加者から研究課題および調査上の問題点について意見を得て、調査研究の内容を深め、また文化政策と地域との関係性を地域に視点を置いて把握することの重要性を学界の共通認識にしたことも重要な成果と言えよう。

（５）成果の第五は、民俗学が実際の問題に貢献できる可能性を追究したことである。現

在、中国においては、中央政府、地方政府挙げて非物質文化遺産保護を展開しており、多くの民俗学研究者もその政策展開に関わり、政策を推進している。本研究は、政策が地域に及ぼす影響、作用、それに対する地域住民の反応、対応を具体的に明らかにした。すなわち、文化政策の実施に際して検討し、考慮すべき問題点を明らかにした。このことは、必ずしも本研究の目的ではなかったが、今後文化政策を具体化する過程で考慮すべき点を示したことになる。開催した各シンポジウムにおいて研究者の理解を深め、さらに刊行した成果報告書の普及によって、文化政策に関わる多くの民俗学研究者に認識されることになろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔図書〕（計２件）

① 福田アジオ編、福田アジオ、安室　知、津田良樹、菅　豊、徳丸亜木、中野 泰、小熊 誠、他『中国江南山間地域の民俗文化とその変容―浙江省江山市廿八都と龍游県山門源―』2011, 366

② 王恬編、福田アジオ、安室　知、津田良樹、菅　豊、徳丸亜木、中野 泰、他　中国文聯出版社『観念和方式―中日非物質文化遺産保護論壇論文集―』2010、547

６．研究組織
(1)研究代表者
福田 アジオ（FUKUTA　AJIO）
神奈川大学・外国語学部・教授
研究者番号：60120862

(2)研究分担者

(3)連携研究者
安室　　知（YASUMURO　SATORU）
神奈川大学・経済学部・教授
研究者番号：60220159
津田　良樹（TSUDA　YOSHIKI）
神奈川大学・工学部・助教
研究者番号：00112996
菅　　豊（SUGA　YUTAKA）
東京大学・東洋文化研究所・教授
研究者番号：90235846
徳丸　亜木（TOKUMARU　AKI）
筑波大学・人文社会科学研究科・准教授
研究者番号：90241752
中野　　泰（NAKANO　YASUSHI）
筑波大学・人文社会科学研究科・講師
研究者番号：20323222

(4)研究協力者
小熊　　誠（OGUMA　MAKOTO）
神奈川大学・外国語学部・教授
研究者番号：90185562
向　雲　駒（XIANG　YUNJU）
中国民間文芸家協会・秘書長
劉　暁　路（LIU　XIAOLU）
中国民間文芸家協会・民間文芸研究所・副所長
馮　　莉（FENG　LI）
中国民間文芸家協会・研究部・編輯
陳　志　勤（CHEN　ZHIQIN）
上海大学・文学院社会学系・副教授
王　　恬（WANG　TIAN）
浙江省民間文芸家協会・副主席
崔　成　志（CUI　CHENGZHI）
浙江省衢州市民間文芸家協会・主席